

特集

ごみ

み

天気や水、土、生物などの環境は、人間にとって不可欠なものです。人間はこうした環境と物質やエネルギーをやり取りし、複雑な関係を結ぶことで生体系が築かれています。人間の呼吸に欠かせない酸素は森林や植物フランクtonの恵みです。海から蒸発した水が真水の雨となって、海へ流れ、豊かな漁場となっているのです。私たちは自然に何をしてあげられるのでしょうか。限りある資源を大切にしましょう。



浜中町にあるごみ処理場



見晴球場のごみ箱



家庭での分別



町内会での分別収集



日本人は外国から

締めだされる!!

ある新聞記事を見てびっくり。大きな活字で書かれた見出しには「日本人観光客は世界から締め出し」とありました。内容は、日本人観光客は世界各国でガムやタバコを投げ捨てたり、到る所に落書きをしたり、騒いだり、騒いだり、ホテルの経営者や観光施設などの関係者が日本人お断りと貼紙をするところが増えているそうです。国内はもとより、留萌市内でもタバコ、ガム、空き缶、ビニール袋紙屑などが、市内に散乱している光景を良く見かけます。

日本国内のニュースでも、毎日のようにごみ問題が取り上げられています。この町もその対策に頭を悩ませています。では、なぜごみは散らかるか、誰が何をすべきなのか、もっと良い方法がないものなのかを考えてみたいと思います。現在の日本は「物あまり」時代となり、未だに使い捨ての生活が後を立ちません。毎日使う日曜雑貨や食料品からのごみ他、家庭財道具、家電製品、衣類、危険な

ガス缶や電池。さらには車やタイヤなど、様々なごみを見かけます。車のエアコンに使用されているフロンガスは生産は中止となったものの、処理されていないフロンガスがまだまだ多く残っているそうです。このごみによる自然破壊は、国の責任?、市役所の責任?企業の責任?・・・それとも、**私たちの責任**なのでしょうか。

自然環境の中で物を作り、捨てているのは人間社会だけであって、ほかの生物はすべて自然のルールを守っているのです。ある町のごみ処理場からは有害な物質**ダイオキシン**が液体や焼却時の煙となって発生するなど、新しい問題が浮かび上がっています。

私たちの住む美しい星地球も使い捨てできるのでしょうか。限りある資源をもっと真剣に、そして一人ひとりが大切にしなければならぬのではないのでしょうか。

ベトナム戦争で使われたダイオキシンとは

1962年から1971年に、米国がベトナム戦争で、枯れ葉剤として使用し、後に肝臓ガン、流産、出産欠陥などが多発したことがベトナムの研究者によって報告されています。

事件簿

1957年米国東部、中西部で、餌に混ぜられた脂肪の中にダイオキシン類が混入し、ヒヨコの大量死が発生。

イタリアの農薬工場で爆発事故発生。事故後、にわとり、猫などの動物が死亡。現在も立入禁止となっている区域がある。

系産業廃棄物による汚染事故発生。一三〇世帯以上が移転。**ダイオキシン類とは**有機塩素化合物の生産過程や、廃棄物の焼却過程等で非意図的に生成する化学物質であり、その発生源は多岐にわたっている。毒性が強く、環境への影響が大きな問題となっています。●一九九六年十二月に厚生省がごみの焼却施設からダイオキシン類の濃度等を調査するよう、市町村に指示がありました。留萌市のリサイクルプラザ(一般廃棄物処理施設)は厚生省が定めた基準をすべてクリアします。

家庭でのごみ焼却には十分注意しましょう

家庭用のごみ焼却炉が普及しているようですが、ごみの種類によっては悪臭だけではなく、有毒なガスが発生する場合があります。特にビニール、プラスチック類の焼却は絶対しないでください。

▼リサイクルプラザ完成予想図

